

3 m³ EV

Emission Trading

SCOOCAR - ETE



EXTERIOR: InterBridge INTERIOR: is·ME

MOTOR: ISIN AW BATTERY: Panasonic

SCOOCAR - E T E



フェラーリ etc **500ps**級
スーパーカーオーナー**限定**
六本木発**港区**ナンバー
CO2削減排出量**取引**
一人乗り**電子**自動車

CONCEPT 乗り物の原点は「走る喜び」

今、私が58歳、フォーミュラカーデビューが18歳ですから、約40年前に日本で一番人気のあるレース「FL&FJ」(フォーミュラリブレ&ジュニア)がありました。日本のドライバーとコンストラクター育成を目的とした、日本が世界に誇る軽自動車のエンジン(2サイクル360cc&4サイクル500cc)搭載の日本独自のカテゴリーのフォーミュラカーによるレースです。私のようなモトクロス(2輪)上がりの新人から自動車メーカーのワークスドライバーまで約30名が、手造り?フォーミュラカーと創成期のスリックタイヤで最高速度200km/hでのバトルはまるでサーカス?事故続出、人気沸騰でテレビ中継もありました。その中から日本人初のF1レーサー中嶋悟やコンストラクター童夢、東京R&D、ムーンクラフト等、まさに日本のモータースポーツの成長期でした。その後、チーム監督として、世界のモータースポーツ史上でも最高傑作といわれているBMWモータースポーツ社の「M12」エンジン搭載の「F2」や「富士GC」マシン、日本のGTレースの礎となった「BMW-M1グループ4&5」、ロードカーでは、ポルシェ73RS、ロータスエスプリ等、数々のレーシングカーやスポーツカーを走らせてきました。しかし、「乗り物」で一番衝撃を受けたのは「EVレーシングカート」でした。F1レーサーもトレーニング用として乗る、「走るだけのクルマの基本型」レーシングカートのモーター&バッテリー仕様です。そのダイレクト感、まさに「電気ショック」、感電?しました。そこで閃いたのが、その「EVレーシングカート」のロードバージョン「SCOOCAR」です。



(ディレクターの小崎は、電気自動車の「公道走行距離」日本一だと言われています)

一人乗り電子自動車「SCOOCAR」(スクーカー)は、CO2削減が叫ばれる今、当然、モーター&バッテリー駆動ですが、「エコカー」としての魅力以上に、「静か」というより「微振動のない」加速、インホイールモーター、低重心&センターバッテリー効果によるオン・ザ・レールなコーナリングなど「走る喜び」があります。20世紀自動車普及の起爆剤となった「T型フォード」は、「移動する便利さ」より「走る喜び」だったと言われています。100年後の今、わが国では「移動する快適さ」だけを追求した結果「クルマ離れ」が起きていますが、今、わずか最高速度55km/h、エアコンもヒーターも無いスクーカーはCO2ゼロの「走る喜び」で21世紀の電気自動車普及の起爆剤となります。

3 m³ EV

E m i s s i o n T r a d i n g

SCOOCAR - ETE



ONLY!!

SuperCar Owner

フェラーリ、ポルシェ、ランボルギーニなどのスーパーカーオーナーのガレージの愛車の横に置き、日常の足代わりとして、愛車との「排出取引」をしていただける、低重心ポジション・バッテリー効果による「オン・ザ・レール」なコーナリングなど、愛車に負けない？エミッション トレーディング EVです。



SCOOCAR



「電気自動車」より一歩進んだ「インホイールモーター」の電気自動車を「電子自動車」。一人乗り、3立方メートルサイズを「SCOOCAR」(スクーカー)と呼びます。日本の車両法では「原付ミニカー」ナンバーで車庫証明、車検、ヘルメット不要。道交法では「普通運転免許」で乗れ、最高速度55km/h(当社)までOKです。家庭用100Vプラグインの8時間充電で約30km走行(1km=約2円)できます。スクーカーは、30km圏内に割り切ったクルマとスクーターの中間車としての機能を徹底追及した、「走る&見られる喜び」が味わえる「排出取引EV」です。

Emission Trading EV

SCOOCAR-ETEは、排気ガスが出ないことは当然ですが、一番の魅力は、「走る喜び」です。その静かで微振動の無い「そよ風」のような加速と、低重心ポジション・バッテリー効果による「オン・ザ・レール」なコーナリングなど大馬力エンジン車で味わえない「異次元」の走りが愉しめます。勿論、小さいクルマが故の公道走行に欠かせない他車からの視認性、衝突安全性、剛性など最大限配慮されています。

Custom Made

実績あるベース車両(基本的にTOYOTA車体のCOMSを採用)を基に1台1台カスタムメイドでお届けします。世界に1台の自分のクルマが創れます。当然、ヒーターやエアコンなどありません。「排出権取引EV」として天気のいい日にオシャレをして駆るペットな乗り物です。愛車以上に注目度が高く、ドライバーが良く見えますので、オシャレのし甲斐もあります。身体と一体化しますので「着るクルマ」の感覚です。ジャケット、サングラス...思い切りオシャレして乗るクルマです。